

南足柄市中沼付近の狩川で、早咲きの桜「春めき」が見頃となり、土手を散策する市民でにぎわっている。

「春めき」が見頃

春めきは、市内で農園を営む古屋富雄さん(63)が品種登録して栽培しており、淡紫ピンク色の花をたくさん咲かせ、さわやかな香りがするのが特徴。兩岸の約700本に古屋さんと富士フィルムによって計171本が植えられ、「春木径」「幸せ道」と名付けられている。

17日は「香りで春を感じてほしい」という古屋さんの計らいで、視覚障害者支援施設・県ライトセンター(横浜市)を利用する人たちが招待された。春めきに近づいただけで「香水みたい」と歓声をあげ、手で花を包み込むと「ほんほりのよう」と感激していた。



「春めき」の香りを楽しむ人たち(南足柄市で)

読売新聞

2016年3月17日